

【十月】お題「秋のもの」・「夜」・「はしる」・「政宗」

月間賞

気づいてる？十五夜の空満月に「月が綺麗ね」ぽつりと言うの

三―三 佐々木愛梨

第二席

丘の道姉の背中に秋の暮れ私はそっと隣に並ぶ

二―二 安田 唯

第三席

秋の空雲の動きはよりはやく木枯らし吹き出す霜月の昼

二―一 釜石 柊那

優良賞

空見上げトンボがとびちる楽しそう空の下で私たち見られている

一―一 小嶋 美香

五時電に乗って帰ると真っ暗で光は歩き影は小走り

一―二 荒木 舞優

登下校ふと鼻かすむ道路わき甘い香りは秋のおとずれ

一―二 濱田 春菜

日が暮れて輝きだした夜の町夜景に映る私の思い

二―三 内海 蓮奈

秋の山ちりゆくもみじきれいだな電車にゆられ余韻に浸る

二―三 内海 蓮奈

肌寒く時の流れは紅葉より風と同じで廻っていくもの

二―三 廣瀬 亜美

影うつる後ろを見ると目の前に大きなまん丸お月様いた

三―二 齋藤 珠々

下校中甘い香りの金木犀秋感じながら心癒やさされ

三―三 伊藤 玲奈

佳作

夏過ぎて見れば鬼灯<sup>な</sup>実る頃に秋の面影感じる私

一―二 熊谷 快夢

秋の夜暗くなるのがはやくなり寒さに耐えて星をながめる

一―二 澁谷 颯斗

木の下を走る道に栗落ちて気づくとそこは涼しい日影

一―三 伊藤 祐晴

秋の夜枯れ葉が月にてらされてゆらゆら落ちる自然のカーテン

二―一 鈴木 浩虹

社会への新たな一歩踏み出した夢に向かって走れ自分

三―一 岩崎 晴斗

三年も走り続けたマラソンがやっと終わったさびしさのこる

三―一 大場 北斗

暗闇にぼつんと一つ月明かり星降る夜は空の芸術

三―一 佐藤 海憂

令和二年今年が秋が短くて出番待つ紅葉足踏みする

三―一 中澤ひなた

日が沈み自室に籠もり映画見て孤独な世界に一人黄昏れ

三―二 浅野 樹

入選

秋行事みんなと一斉にスタートし景色変わらぬ道のり進む

一―一 大類 勇人

秋の夜暗くなるのが早いけど夜は夜でしずかな日々

一―一 住吉 祐斗

秋の夜夜空に満開星くずが思い出残る秋の夜かな

一―一 鈴木 優花

折り返したどり着くまで先生に今何キロか何度も聞いた

一―二 荒木 舞優

走り出す切れ出す息と重い足のどに冷たい秋風通る

一―一 松田 真於

奥州の戦国大名伊達政宗兜には光る黄金の月

一―二 安倍みらい

はじめての5キロマラソン最後はね坂との勝負足が上がり

一―二 高嶋 心愛

暗闇は朝には見えぬものたちが一色の空を染め上げる

一―二 濱田 春菜



マラソンで走っているとき栗が落ちあらためて知る秋のおとずれ  
 夕暮れのかすかに光る太陽のまぶしさ残る二人の人よ  
 自然香る岩出山の町走り抜け白線を踏み笑みがこぼれる  
 窓辺から秋の夜空を見上げつつ虫のコーラスに耳を傾ける  
 虫が鳴き夜に輝く十五夜の餅つきうさぎが冬を知らせる  
 足とめず坂をのぼりかけてゆき「ラストスパート」先生の声  
 今日もまた一日おつかれ寝る前に頭の中で思い日記  
 静寂は夜の景色を見ているとしんしんと雪が笑ってるようだ  
 坂道を通り抜くは初嵐負けじと走る友と一緒に  
 曼珠沙華赤いドレスを身にまとう思っているのはあなた一人  
 街灯の灯火消えゆく街の夜静けさ残る寒波の星夜  
 夕焼けの帰宅時間も早くなり夜と鉢合わせ帰り道  
 独眼竜片眼で生きる政宗は岩出山の最高の英雄  
 赤くなる山が一気に衣替え紅葉いっぱい広がる峡谷  
 辛い呼吸止まってしまうかゴール前いやまで約束絶対はたさず

一―三 鈴木 隆徳  
 一―三 早坂 爽汰  
 一―三 佐々木陽菜  
 一―三 佐々木陽菜  
 一―三 千葉 果澄  
 二―一 本間 芽依  
 二―二 鈴木 仁菜  
 二―二 鈴木 仁菜  
 二―二 安田 唯  
 二―三 遊佐 茉星  
 三―一 阿部 陽和  
 三―一 中澤ひなた  
 三―二 松浦 力樹  
 三―三 澁谷 大輝  
 三―三 濱田 優菜

国語科からのアドバイス…今回はお題にイメージしやすいものが入っていたため、皆さん力作ぞろいでした。月間賞の佐々木さんの「月が綺麗ね」は、夏目漱石が「Moon」を日本語訳したものと逸話(証拠はない)からとられたものでしょうか。こうした遠回しな表現、嫌いじゃありません。直接言うのではなく、私の想いに気づいてほしい！という熱量が奥底に感じられます。(直)